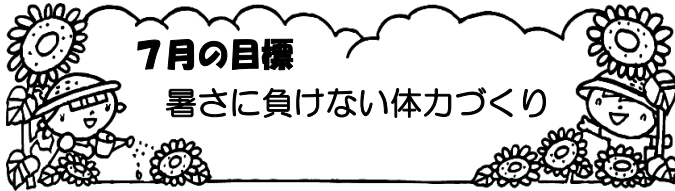




つぼみ保育園 保健室 2023年7月

梅雨が明ければ、いよいよ夏がやってきます。急に暑さのきびしくなる今は体調を崩しやすい時期です。いつも以上に生活リズムに気を配って、楽しい夏の思い出をたくさん作ってください。



### 7月の予定

- 3日(月) くるみ身体測定  
くすのき身体測定
- 4日(火) まつぼっくり身体測定  
しいのみ身体測定
- 6日(木) たけのこ身体測定
- 12日(水) たんぽぽ身体測定
- 28日(金) 園医健診 たんぽぽ・くるみ

くすのきクラスで、プライベートゾーンの話をしました。男の子も女の子も水着で隠れるところは他人に見せたり、触らせてはいけません。

「自分の体は大切にしよう」「お友達同士でも触ってはいけません」と話しました。

「おちんちんのはなし」の本を読み聞かせしました。ちょっと難しい内容も含まれていましたが、子どもたちも真剣に聞いてくれていたと思います。

### 6月の感染症情報

・ヘルパンギーナ	16名	・手足口病	4名
・嘔吐、下痢	20名	・水いぼ	2名
・RSウイルス感染症	1名		

発熱、のどの痛み、嘔吐、下痢、食欲減退などの症状のある園児が増えています。全国的に、ヘルパンギーナ、手足口病が流行しています。食事が食べられない等の症状がある場合は、食べられるようになってからの登園をお願いします。

### お知らせ

新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと扱いが同じになることに伴い、園での対応も変わってきます。

今まで、発熱の際、きょうだいも発熱の理由がわかるまで一緒のお休みをおねがいでしていましたが、今後は兄弟が同様の症状がなければお預かりすることになりました。

又発熱後、嘔吐・下痢症状後の24時間の経過観察は今までと変わりません。

## 虫除けスプレーについて

以前、ディートという成分が乳幼児によくないということで、アロマオイルを使用した虫除けスプレーを使用してきました。現在は「イカリジン」の成分の虫除けスプレーを園でも使用しています。

★早朝時間帯などは充分行き届かないところがあります。虫刺されの心配な方は、朝、登園前にお家で使用されてくることをお勧めします。(6~8時間効果があります)

「イカリジン」は日本では、2015年に使用が承認された、新登場の「虫よけ成分」です。「ディート」と比べると、年齢制限や使用制限がありません。ディートの場合は生後6カ月未満の赤ちゃんには使用が禁じられていますし、12歳以下のこどもには1日に使用できる回数に制限があります。「イカリジン」にはこれらの制限がありません。赤ちゃんにも使用できる虫よけ成分です。

※ 虫に刺されやすい、肌が弱いなど気になる方は薄手の長袖、長ズボンなどで対応していただけるようお願いいたします。

## 水分補給

大人の体は7割近くが水分です。乳幼児はさらにその割合が増え、生まれたばかりの乳児だと、なんと8割近くになります。その分、失われる水分量も多く、こまめな水分補給が必要になります。

### Q&A

- いつ飲ませればいいのか？  
起床時、就寝前、運動の前後、入浴前後など、汗をかく前と後に飲ませるのがよいでしょう。
- どのくらいの量がよい？  
一度に大量を与えるのは避け、コップ1杯程度の量をこまめに与えましょう。
- 何を飲ませればよい？  
病気にかかっていなければ白湯や麦茶などがよいでしょう。糖分の多いジュースや、消化に時間のかかる牛乳、硬度の高いミネラルウォーターは、水分補給という点ではあまり適しません。失われた電解質を補充する時は、経口補水液が役立ちます。

### 乳児への水分補給

首がしっかりと座って離乳食を始める準備ができるようになったら、スプーンを使って、白湯などを少しずつ与えましょう。





# 気をつけよう！夏の感染症

「毎日プール」で楽しい夏ですが、体力の消耗の激しい時期でもあります。また、プールの水を媒介していろいろな病気が感染しやすく、あっという間に広まることも多いのです。夏、どんな感染症がはやるのかを知ったうえで十分に気をつけていきましょう。

## ヘルパンギーナ

**原因** → コクサッキーウイルスA群などに飛沫感染することで発症。

**症状** → 高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ほうや潰瘍（かいよう）ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクが飲めなくなるほどに。

**対応** → のどの痛みは、熱が下がってからも続くことがある。熱やのどの痛みがあるうちは、安静に過ごすように。



## 咽頭結膜熱（プール熱）

**原因** → アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を介して感染することがあるので、「プール熱」と呼ばれる。

**症状** → 39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴。

**対応** → 感染したら、症状がなくなってから2日経過するまでは登園停止。自宅で安静に過ごすように。



## 流行性角結膜炎

**原因** → 目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけでなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近では季節に関係なく発症する傾向がある。

**症状** → まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うことも。

**対応** → 完治まで2～3週間かかり、発病から2週間は登園停止。感染予防のため、こまめに手を洗い、タオルの共有は避ける。

## 手足口病

**原因** → コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる飛沫感染。

**症状** → 手のひらや足の裏、口の中に小さな水ほうや赤い発しんがで、熱が出ることも。

**対応** → 3～5日で治る。元気があれば登園できるが、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛やおう吐を伴う発熱が3日以上続くときは、すぐに受診を。



## とびひ

**原因** → 虫刺されや湿しんをかきむしったあとに黄色ブドウ球菌が感染して起こる。症状がどんどん広がっていくことからこの名称で呼ばれる。皮膚が弱いとかかりやすい。

**症状** → 皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけたような状態になる。発熱することも。

**対応** → 主な治療法は抗生物質の使用だが、衣服を清潔に保つこともたいせつ。患部をガーゼなどで覆って登園するように。また、患部がじくじくしているときは症状が悪化しやすいので、プールは避ける。シャワーを浴びる程度ならOK。

## 水いぼ

**原因** → ボックスウイルス群が原因。タオルやビート板の共有、体の接触などで感染する。

**症状** → 粟粒大のいぼが胸や腹、わきの下などにできて広がる。

**対応** → 完治まで半年から1年半程度かかる。自覚症状がなければ治療は不要。肌のバリア機能が低下しているときや、かゆくてかきこわしてしまうようなら、医師と相談のうえ、いぼを取ったり、薬による治療を行うことも。

